

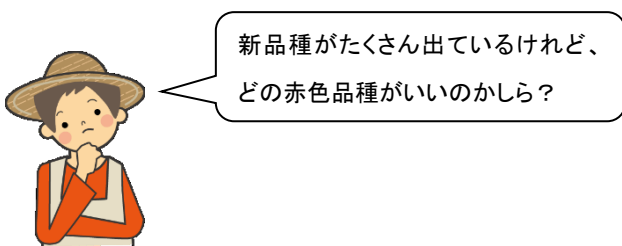
ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立（第5次）

【試験期間】平成28年～令和2年

【目的】

近年、多くの新品種が育成されているが、県内における特性については明らかになっていない。そこで、特に生産現場や市場から強い要望のある大粒の赤系品種を中心に、本県における生育特性や果実品質を明らかにする。

また、近年の環境変動を受け被覆栽培の必要性が高くなっている。ここでは主要品種において簡易雨よけがブドウの生育および果実品質に及ぼす影響について明らかにする。



スカーレット



バイオレットキング

【内容】

(1) 優良品種の特性調査

「スカーレット」、「バイオレットキング」等7品種3系統について、生育特性、短梢剪定栽培適応性、果実品質および皮ごとの食べやすさを調査した。

(2) 簡易雨よけ施設の利用による高品質・安定生産技術の検討

「シャインマスカット」と「ピオーネ」の短梢剪定栽培において、簡易雨よけの設置が生育と果実品質に与える影響を調査した。

【結果】

(1) 各検討品種の特性を明らかにした。果粒重が大きい、着色が優れる等、有望な品種も数品種認められたものの、皮ごと食べにくい、年によって裂果が発生するなどの問題も併せ持っていた。よって、本検討品種からは県内に広く推奨できる品種は見いだせなかった。一部課題が残った品種については、後継課題（第6次）で皮ごとの食べやすさの向上を含め継続して検討する。

(2) 簡易雨よけの設置による生育促進や果実肥大効果について成果情報として取りまとめた。

平成29年度成果情報

ブドウ「シャインマスカット」「ピオーネ」における簡易雨よけ設置の効果

モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立（第5次）

【試験期間】平成28年～令和2年

【目的】

モモの新品種は県内外で育成されているが、県内での詳しい特性や栽培適応性は十分に把握されていない。そのため、栽培者が新品種を導入する際、品種選択が困難となっている。そこで、本県の気象条件に適し、果実品質や栽培性に優れた品種を明らかにする。また、県オリジナル品種である「夢みずき」の施設栽培における適応性を検討する。

【内容】

(1) モモ優良品種の特性調査

県内外で育成された9品種について、詳しい特性や県内における栽培適性を調査した。

(2) 施設栽培適応性の検討

ハウスモモの生産安定に向けた資料を得るために、慣行加温体系に準じて「夢みずき」等の施設栽培を行い、生育特性や果実品質等を確認した。

【結果】

- (1) 各検討品種の特性を明らかにし、大玉で品質が優れる極晩生種「ゆめかおり」については成果情報として取りまとめた。

令和2年度成果情報

大玉で品質が優れるモモ極晩生種「ゆめかおり」の特性

「ゆめかおり」は果樹試験場において、9月上中旬に成熟する極晩生種である。

果実重が約700gと大玉で、果汁が多く、食味が優れる。
ただし、花粉がないため、人工受粉が必要である。



「ゆめかおり」

- (2) モモ「夢みずき」について、施設栽培における若木の生育特性および生理落果対策を実施した生産安定対策について成果情報として取りまとめた。

平成29年度成果情報

施設栽培におけるモモ「夢みずき」若木の特性

令和2年度成果情報

モモ「夢みずき」の施設栽培における生産安定対策

慣行加温体系の施設栽培「夢みずき」の収穫期は5月下旬となる。生理落果の発生が見られるが、摘果程度の調節や袋かけ時期を遅らせる対策の実施により、収量を確保しつつ、大玉で着色や食味の優れる果実が収穫できる。



ハウス栽培「夢みずき」

果樹園の土壌管理などによる果実安定生産技術の確立

小課題：生理障害発生園の土壌環境実態把握

【試験期間】平成30年～令和2年

【目的】

環境変動や土壌環境の悪化により、果樹の生理障害の多発化が懸念されている。生理障害の発生要因は、土壌面の影響も少なくないと考えられる。果実の安定生産を図るため、現地障害発生園の土壌特性を明らかにする。

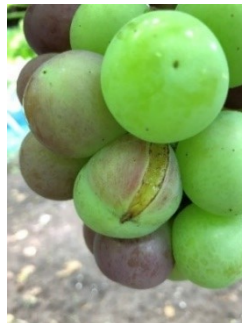


集中豪雨や猛暑による
・土壌環境の悪化
・生理障害の多発
が心配

生理障害で、
収量や商品性が低下してしまうよ



モモの核割れ



ブドウの裂果



障害発生園の土壌調査

【内容】

(1) モモ園の土壌環境実態把握

モモの生理障害核割れを対象に現地発生園における土壌理化学特性を調査した。

(2) ブドウ園の土壌環境実態把握

ブドウの生理障害裂果を対象に現地発生圃場の土壌理化学特性を調査した。

【結果】

核割れが発生しやすいモモ圃場は、土壌が緻密で、土壌水分の急増が生じやすい傾向が認められた。裂果が発生しやすいブドウ圃場は、土壌水分の急激な変動が生じやすく、透水性が低い傾向が認められた。

本小課題を終了とするが、引き続き R4 まで実施する発生抑制試験の中で、土壌水分や土壌物理性のデータを補完して、要因解析を行い、生理障害の対策技術として取りまとめる。

果樹園の土壌管理などによる果実安定生産技術の確立

小課題：モモ・ブドウの環境変動に対応した効率的施肥技術の確立（委託試験）

【試験期間】平成30年～令和2年

【目的】

温暖化や環境変動が一因とされる樹体の生育不良や果実品質の低下が問題となっている。落葉果樹は樹種により従来の施肥時期ではなく、春施肥で樹体生育の改善事例が報告されている。そこで、温暖化における安定生産への対応が可能な施肥方法を検討するため、施肥時期や施肥量が果実生産に及ぼす影響を検討する。



安定生産に対応可能な施肥方法を検討します。



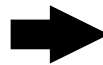
施肥時期の検討

【内容と結果】

(1) モモの施肥時期の検討

1) 窒素施用時期が樹体生育に及ぼす影響（ポット試験）

施肥時期（9～翌4月）が樹体生育や樹勢に及ぼす影響を調査した。



・12月、1月に施肥をした試験樹で樹体の生育量が少なかった。



2) 窒素施用時期が樹体生育に及ぼす影響（現地試験）

秋施肥（10月）と春施肥（4月）が果実品質に及ぼす影響を調査した。

	施肥時期	
	9月	4月
秋施肥	○	-
春施肥	-	○



・秋施肥は、果実品質が良好となった。
・春施肥は、果実品質が低下傾向を示し、樹体生育が旺盛となるため、管理作業の増加が懸念された。



(2) ブドウの施肥時期の検討

秋施肥（10月）と春施肥（3月）が、果実品質や樹体生育に及ぼす影響を調査した。

	施肥時期	
	9月	3月
秋施肥	○	-
春施肥	-	○



・秋施肥は、果実品質が良好となった。
・春施肥は、果実品質が低下傾向を示し、樹体生育が旺盛となるため、管理作業の増加が懸念された。



なお、本課題を終了するにあたり新たな知見は得られず成果情報には至らなかったが、委託元のJA全農やまなしへ成績を提出し、JAにおける指導資料等として用いられる。